

平成29年第5回羽村市議会（定例会） 一般質問通告項目一覧表

発言順	議席番号	議員氏名	質問項目	質問日
1人目	6番	富永訓正 (60分)	<p>1. 昭島市から依頼された西多摩衛生組合での可燃ごみ共同処理について</p> <p>(1) 西多摩衛生組合から示された調査報告書について「技術的措置対応」「財政面への影響」「周辺住民の意見集約」の3項目について伺う。</p> <p>① 3項目のそれぞれの報告概要を聞く。</p> <p>② 3項目それぞれの調査結果を市としてどのように捉えているか。</p> <p>③ 3項目の調査結果を市民にどのように伝えていくのか。</p> <p>(2) 共同処理の依頼に至った経緯や説明などについて、昭島市からはどのように聞いているのか伺う。</p> <p>① 昭島市の可燃ごみ処理施設「昭島市清掃センター」の現状と将来性について</p> <p>② 昭島市単独での可燃ごみ処理施設の新規建て替えについて</p> <p>③ 西多摩衛生組合以外との広域化への取組みについて</p> <p>④ 立川市との共同処理への取組みについて</p> <p>⑤ 西多摩衛生組合への加入依頼の理由について</p> <p>(3) 可燃ごみ処理に関する国や東京都での方向性はどのようになっているか伺う。</p> <p>(4) 構成市町間での協議について伺う。</p> <p>① どのような体制で行われるのか。</p> <p>② いつから始まり、いつ頃までに結論を出したいと考えているか。</p> <p>③ この間の情報公開をどのように考えているか。</p> <p>④ 西多摩衛生組合に調査依頼を決めた3項目の技術的措置対応、財政面への影響、周辺住民の意見集約。この3項目が判断要件のひとつとされているが、他の要件は何かがあるか。</p> <p>2. 第六次羽村市行財政改革について</p> <p>(1) 今年度からの5か年計画の「第六次羽村市行財政改革基本計画」で目指しているものは何かを伺う。</p> <p>(2) 第六次羽村市行財政改革基本計画の「行政改革・財政改革」で掲げている4つの柱について、その要点を伺う。</p>	9月6日

2 人目

5 番

中 嶋 勝
(60 分)

- ①「行政改革」について
 - (ア)社会経済情勢や市民ニーズに合った行政サービスの展開
 - (イ)効果的、効率的な事務事業の推進
 - (ウ)多様な担い手との連携
 - (エ)人材育成と機動的な執行体制の確保
- ②「財政改革」について
 - (ア)財務マネジメントの強化
 - (イ)財政基盤の強化
 - (ウ)財源の効果的な活用
 - (エ)市有資産の有効活用
- (3)固定資産台帳が整備され昨年度より導入された地方公会計制度。これからの「資産・債務の適切な管理」や「財務情報の分かりやすい開示」による「見える化・見せる化」が一層進み、分析によりデータの活用なども期待されるが、統一的な基準による地方公会計制度について伺う。
 - ①地方公会計制度の導入のねらいと、効果の見込みは。
 - ②平成 28 年度の決算からどのように活かされ、どのような形態になるのか。
 - ③担当職員のスキルアップへの取組みは。
 - ④財務情報の分析等によるデータの活用をどのように考えていくか。

1. 清里にある羽村市自然休暇村の充実について

- (1)平成 29 年 4 月から山梨県と 30 年間の用地契約更新をして、自然休暇村を維持していく決断をした主な理由は何か。
- (2)自治体運営の類似施設と比べ、大変素晴らしい建物と広さを有しているが、築 30 年が経過し老朽化対策が課題である。
 - ①傷んでいる箇所の把握はできているか。それは主にどこか。
 - ②今後 5 年間の改修予定と予算はどうなっているか。
 - ③大規模改修はいつやるのか。
 - ④今までの 30 年とこれからの 30 年では、取り巻く環境や財政状況、また施設の状態等が大きく違う中、市民ニーズに応えるべく自然休暇村を維持していく市の決意を伺う。

9 月 6 日

3 人目

14 番

石 居 尚 郎
(60 分)

- (3) 年間を通して稼働率を向上させるため、今後の具体的な取組みを伺う。
- (4) 特徴の一つに星空観察会があるが、環境に恵まれていることからもっと星空観察の充実を図ったらどうか。
- (5) 指定管理者と市が一体になっての積極的な運営と改善へ、さらなる努力が必要であると強く感じるがどう捉えているか。

2. はむらん中央コースの増便を望む

- (1) 平成 26 年 7 月から延伸した中央コースの延伸前と後の利用者数推移を伺う。
- (2) 中央コースについて、はむらん運営推進懇談会で増便等の意見が出たか伺う。
- (3) 中央コースについて、市民から担当部署へ増便等の意見は寄せられているか。
- (4) 特に朝の便では、「福生病院の開院時間に間に合う便があれば」等の声を聞いている。福祉的な視点や高齢者の運転免許証返納などでの通院への利便性向上の視点からも増便を望むがいかがか。

3. 町内会館に手すりの増設を

- (1) 高齢化に伴う、町内会館におけるさらなるバリアフリー対策について市の考えを伺う。
- (2) 階段の手すりについて
 - ① 階段がある会館のうち、階段手すり（ない・片側のみ・両側）の設置状況を伺う。
 - ② 両側に手すりがある利点を伺う。
 - ③ 両側設置されていない会館には、早急に両側設置することを望むがいかがか。
- (3) 階段だけでなく、「下足場所にも支えるための手すりがあるとありがたい」との声もある。今後の対応を伺う。

1. 羽村市の知名度アップと地域活性化を

- (1) 平成 28 年 4 月にシティプロモーション推進課が新設され、平成 29 年 3 月には基本方針が示された。そこで、この 1 年の取組み状況と基本方針が目指すものを聞く。またブランドメッセージにある「東京で子育てしやすいまち」を具体的にどのように実現していくのか。

9 月 6 日

(2) シティプロモーション推進手順として、「戦略的・継続的な情報発信」とある。3年後の2020年には、東京でオリンピック・パラリンピックが開催される。そこには国内外から多くの人が東京にやって来る。羽村市として、このタイミングをどのように生かしていくのか。

(3) 東京都内でも羽村市の知名度は最下位と聞く。全国的に見ても厳しい現状であろう。地域活性化には羽村市の魅力を発信して、知名度をアップしていくことが先決である。そのためには何が有効であると考えるか。

(4) 今年度、観光協会が法人化した。知名度向上に観光協会のさらなる活躍が期待される。今後、羽村市が行おうとする連携と支援について聞く。

(5) 商工会など諸団体や事業者との連携推進をどのように図っていくのか。

(6) それぞれの分野で活躍する市民が、知名度アップ・地域活性化を押し上げていくことが期待できる。市民ひとり一人が主体的に参画できる環境を、羽村市としてどのように整えていくか。また、羽村市をPRする観光大使のような制度を設けてはどうか。

2. 子ども読書活動推進と図書館の充実について

(1) 図書館における審議会等において、これまで提言や意見は、どのような内容のものが挙がり、具体的に何が実行されてきたのか。

① 平成23年6月に答申された「図書館サービスのあり方について」

② 平成25年6月に答申された「図書館運営状況について」

③ 平成27年3月に具申された「図書館分室等のあり方について」

④ 未実施なものについて、提言・意見を今後どのように反映させていくのか。

(2) 「第三次羽村市子ども読書活動推進計画」について、家庭・地域、市図書館、学校、子どもや生涯学習に関連する施設における読書活動をどのように推進していくのか。

(3) 子どもの読書活動を推進するための啓発活動と、計画の取組みをどのように推進していくのか。

(4) 子ども読書活動を推進する上でいくつか提案

4人目

12番

小宮國暉
(60分)

する。

- ①3歳児に贈るセカンドブックと小学1年生に贈るサードブック事業を実施しては。
- ②創造力を豊かにする、創作童話コンクールを創設しては。
- ③児童文学を創作するための講座を開設しては。
- ④絵本の原画展示を、生涯学習センターゆとろぎと図書館の共同事業で年1回をめどに実施している。回数をさらに増やし、春の「こどもの読書週間」と、秋の「読書週間」の期間にも開催してはどうか。

1. 突発的自然災害（風水害、土砂災害）から市民を守る取組みを

(1)安全で安心なまちづくりには、様々な状況・場面を予測（危険予知）し、対応・対策を立てておくことが重要であると考え。

- ①突発的自然災害を予測した具体的ハザードマップの見直し作業の進捗状況は。また見直しを行う上での課題は何か。
- ②自然災害種別、数値的な設定根拠別、羽村市内地域特性区分等、マトリックス手法を用いて、立体的映像解析をともなったシミュレーションを行い、それに基づいた多角的対策が必要と考えるがいかがか。
- ③東京2020オリンピック・パラリンピックに備えるべく突発的自然災害に対する事前予測システムの活用について、検討は進んでいるか。また広域的な連携を視野に国への働きかけはいかがか。

(2)昨年8月に上陸した台風により市内に被害が発生した。台風上陸に備え、羽村市の今後の対策について伺う。

- ①公共下水道（雨水管）の整備予定について、今年度の計画と来年度以降はどうなっているか。想定外の浸水災害に対し、今後どのように対応していくか。
- ②豪雨時のマンホールの安全性（蓋の外れ、雨水の噴出等）は大丈夫か。
- ③羽加美栄立体交差（アンダーパス）の豪雨時の対応は。

9月6日

- ④町内会や地域単位で取り組めるソフト対策としてはどのようなものがあるか。
- ⑤市民からの通報や要請に対し、十分対応できる体制が取られているか。
- ⑥警察、消防、国や都、その他関係機関などとの連携体制は構築されているか。

2. 健全財政に向けた新地方公会計制度への取組み

- (1)行財政改革の視点で、過去5年の財政、財務の主なる取組みはどのようなものがあったか。
- (2)過去の総務省方式改訂モデル、基準モデルと新地方公会計制度との主な違いと要旨は何か。
- (3)新地方公会計制度への取組みについて
 - ①取組みに対して行財政改革としての意義は庁内で取り上げられているか。
 - ②庁内での作業工程ガイドラインはできているか。
 - ③羽村市の課題は整理されているか。

3. 羽村の子どもたちに「郷土愛を育む」取組みを

- (1)羽村の子どもたちの「郷土愛」の醸成について、羽村学や体験学習のなかで「多摩川」に関してどういった取組みがされているのか。
 - ①多摩川は生きた教材である。小中学校における羽村学や体験学習のなかで多摩川を使った学習にはどういったものがあるのか。
 - ②学校教育以外にも、多摩川を使った体験学習などは行われているのか。
 - ③生涯学習後期基本計画の施策には「地域で学ぶ多様な体験学習」として、「多摩川や自然休暇村における体験学習の実施」が計画事業として挙げられている。今後、どういった具体的体験学習を実施していくのか。
- (2)羽村の子どもたちの「郷土愛」の醸成に寄与している各種郷土芸術的行事には、どのようなものがあるか。
 - ①郷土芸術的行事の内、文化財として登録されているものはどのようなものがあるか。
 - ②羽村の子どもたちの「郷土愛」の醸成には文化財の果たす役割も大きく、毎年春に行われる山車の六社曳き合せは郷土愛を育むには最良の機会である。こうした行事や山車の維持保全などに、教育や観光振興の観点から、行政の援助が必要ではないか。

1. 羽村市の人事評価制度について

～職員が生き生きと働くことができる運用を！～

- (1)羽村市では人事評価制度の基準となる「能力」や「業績」に、どのような指標（項目）が使われているのか。
- (2)面談は年何回行われ、一人当たり1回の面談時間は。
- (3)評価手法について総務省は「絶対評価」を推奨していると同時に「相対評価も必要」としている。羽村市は「絶対評価」と「相対評価」をどのように用いているのか。
- (4)人事評価制度の公正・公平性、客観性、納得性を確保するためには評価する側の研修や訓練が不可欠だと考えるが、どのような制度がとられているのか。
- (5)苦情処理については「羽村市職員の人事評価に関する規程」の第15条に定められているが、修正評価に対する異議は申し出ることができるのか。
- (6)人事評価結果の給与、一時金（賞与）への反映について何う。
 - ①勤務成績への反映（査定昇給と分布率）
 - ②勤勉手当への反映（成績区分と分布率）
 - ③勤勉手当の原資はどのように拠出されているのか。
- (7)人事評価の「結果」は全面開示されているのか。
- (8)人事評価制度は職員の地位や処遇と連動しており、職員組合との交渉事項であるが、職員組合は制度の立ち上げ、運用にどのように関わってきたのか。また関わっているのか。
- (9)人事評価制度の効果と課題について何う。

2. 羽村駅東口ロータリー（道路）の利用について

- (1)利用について
 - ①羽村駅前公有地共同運営協議会が組織され、事業者間調整を行い、羽村市に報告していると聞いているが、道路管理者である羽村市、交通管理者である福生警察は関与しているのか。
 - ②現在、何社が協議会に加盟しているのか。（市内、市外別）
- (2)羽村駅東口ロータリーが公有地ならば、羽村市公有財産管理規則が適用され、利用されているのか。

6 人目

9 番

西 川 美佐保
(60 分)

(3) ロータリーの清掃、整備、維持管理費は市が支出している。公共交通事業者は市民の足を守り（タクシー事業者は駐車施設使用料を市に納めている）、市内事業者は法人税を羽村市に収めている。社員の送迎、荷降ろしのために短時間であれ駐停車し、恒常的、継続的にロータリーを利用している市外事業者からは、ロータリー利用料を徴収してもよいのではないか。

1. 新産業の創出で、魅力ある職住近接の都市へ

(1) 産業施策の実施計画について、それぞれ現状（課題、方向性）を伺う。

- ① 産業福祉センター機能の充実・拡大について
- ② 新たな雇用対策の仕組みづくりの検討について
- ③ 産業支援機関等との連携強化について
- ④ 広域連携の推進について
- ⑤ 企業情報の発信について

(2) 第 4 次産業革命への市の対応について

- ① ICT や AI、IoT、ビッグデータ、3D プリンター等第 4 次産業革命の技術の導入は特に小規模事業所には重要である。大量生産の時代から、個々のニーズへの対応が求められていると思うが市の考えは。
- ② 新たな分野を伸ばすため、都の助成金（新技術開発助成など）にプラスして、市も新技術導入に関する助成金をつけ、市内企業の技術力向上をさらに推進すべきでは。
- ③ これらを使用したいと考えている事業所には、その他どのような支援ができるのか。

(3) 若者が羽村市に定住できる施策は重要だと考えるが、市の取組みは。

(4) 栄、緑ヶ丘工業団地や神明台工業団地を抱える「西東京工業団地」の発展について

- ① 西東京工業団地内の企業誘致について、現状と課題は。また、空いた土地のリサーチや今後の発展への考えは。
- ② 西東京工業団地内にある「工業用水」を引いている地域について
(ア) 工業団地内には、工業用水が引かれている地域がある。今後のあり方をどのように考えていると聞いているのか。

9 月 7 日

(イ) 工業用水で魚の養殖（内水面養殖業）は可能か。これまで、魚の養殖の6次産業化などについて質問しているが、工業団地内の空いた土地を利用して具体化できないか。可能であれば産業部門の中に水産業も新たに加えてはどうか。

2. 「ひきこもり」の社会復帰に向けた支援について

(1) 実態の把握について

ひきこもりの問題は本人や家族にとって深刻な問題であるだけでなく、対策を取らないことは、社会的にも大きな問題であると考えているが、

- ①市では15歳から55歳までのうち、概ね何%で何人くらいと予測できるか。
- ②藤里町では、実態を把握したことから対策が進み効果を上げている。まずは実態の把握が必要であると考えているが、すでに調査を行っている自治体などを参考に、羽村市でも実施しては。

(2) 自立に向けてのサポート体制について

- ①東京都としてはどのような支援があり、民間ではどのような支援があるか。
- ②親の亡き後には、経済的問題以外にも市役所での手続きや公共料金の支払いなどを自力で行う必要があるが、市としてどのようなサポートができるのか。
- ③ひきこもりに悩む家庭と本人に寄り添いながら社会との接点を探る専門家の存在が必要である。誰がそれを担うのか。
- ④藤里町社会福祉協議会が開設している福祉の拠点「こみっと」等のように、ひきこもり・不就労者・障がい者の社会参加の機会として、働く場所を作り、地域住民とともに支え合う地域づくりへ貢献する取組みは参考になる。羽村市に合った支援体制を考えてはどうか。

3. 「ユニバーサル農園」の取組みについて

- (1) 一定期間使用しないことが見込まれる市有地を活用し、管理者（例えば、NPO法人やシルバー人材センター等）を置き、高齢者、障がい者、引きこもり、その家族などが幅広く関われる「ユニバーサル農園」を設置し、外に出るきっかけづくり、居場所づくりを推進してはどうか。

1. 耐震改修促進計画について

(1) 木造住宅の耐震診断・耐震改修について

- ①市では平成28年度までに耐震診断・耐震改修に対し、何件、いくら補助を行ったか。
- ②平成29年度の耐震診断・耐震改修への補助はこれまで何件あったか。
- ③平成29年7月改定の耐震改修促進計画では、住宅の平成32年度の耐震化目標値を95%、民間特定建築物の耐震化目標値を95%としているが、見通しはどうか。
- ④平成29年7月改定の耐震改修促進計画では、公共建築物について、残り13施設を耐震化していくとしているが、見通しはどうか。

(2) 特定緊急輸送道路沿道建築物の耐震化について

- ①特定緊急輸送道路沿道建築物は、羽村市内に何棟あり、その耐震診断等の状況はどうか。
- ②市では、これまで耐震診断と耐震補強設計の補助要綱を制定しているが、耐震改修の補助要綱はない。必要ではないか。
- ③平成29年7月改定の耐震改修促進計画では、特定緊急輸送道路沿道建築物の平成32年度の耐震化目標値を100%としているが、見通しはどうか。
- ④耐震補強設計等に対して、国や都の補助制度はあるが、これに市として上乗せして補助する考えはないか。
- ⑤一般緊急輸送道路沿道建築物の耐震化についてはどう考えるか。

(3) 新耐震基準で建築された建築物について

- ①熊本地震では、新耐震基準で建築された木造建築物も倒壊しているが、この状況を市はどのように捉えているか。
- ②千葉市が行っているように、昭和56年6月から平成12年5月までの耐震基準の住宅に対しても、昭和56年以前の旧耐震基準による住宅と同様な補助を検討すべきではないか。

2. 新生児の聴力検査など出産前後の費用補助について

(1) 新生児の聴力検査について

- ①新生児の聴力検査に市は補助金を出しているのか。
- ②新生児の聴力検査に市が補助金を出していた

8人目

18番

門 間 淑 子
(60分)

- 時期はあるか。
- ③東京都内で新生児の聴力検査に補助金を出している区市町村はあるか。また、その額は。
 - ④保護者の自己負担額はいくらか。近隣の出産場所を例に問う。
 - ⑤市が補助金を検討する上での課題は何か。
 - ⑥テレビ報道されたこともあり、今後、補助金を出す自治体が増加すると考えられる。羽村市も補助制度を検討すべきと考えるが、いかがか。
- (2) 出産前後にかかる費用について
- ①新生児の先天性代謝異常検査の費用は無料であるが、採血の費用については自己負担になっている。採血の費用を市で負担することを検討すべきと考えるが、いかがか。
 - ②1か月児健診は出産した病院において有料で実施される。市からの補助を検討すべきと考えるが、いかがか。
 - ③里帰り出産した場合の妊婦健診の費用に対する補助金はどのように支払われているのか。

1. 文書管理と情報公開について

- (1)羽村市が文書を管理する上での基本的な方針は何か。
- (2)文書分類保存年限基準は、どのように定められているか。
- (3)武蔵野小学校建設に関して、永年保存文書は何か、5年保存文書は何か。
- (4)「議員、各種委員会、審議会等の委員等の履歴書」が永年保存と記載されているが、見直しが必要ではないか。
- (5)文書の廃棄方法は、切断、溶解、焼却等記載されているが、どのように分類しているか。

2. 昭島市の可燃ごみ受け入れ検討は慎重に

- (1)構成市町の部課長による検討会議は、設置されたのか。
- (2)検討会議はどこまで進んでいるか。
- (3)「平成31年度を限度とする」という昭島市の主張は、どのように検証するのか。

9月7日

9 人目

4 番

富 松 崇
(50 分)

3. 羽村駅西口土地区画整理事業について

- (1) 6 月議会で、曳き家工法が 167 棟、再築工法が 772 棟との答弁があった。それぞれどのような判断基準で決めたのか。
- (2) マンションなど堅固な建物も大小様々で数多くあるが、どうしていくのか。
- (3) 立体物の作成を提案したが、公共施設を中心に立体イメージパース図を作成するとの答弁だった。パース図ではなく、地域全体のジオラマのような立体物を作成すべきではないか。
- (4) 擁壁工事は 1 年以上の期間になり、資機材搬入車両や大型の重機が通行するが、付近の住民の方々の了解は得られたか。
- (5) 工事期間中の月毎の 1 日平均の工事車両通行量はどれほどか。
- (6) 阪神大震災にも耐えられる擁壁とのことだが、参考とした工事はどこか。
- (7) 平成 30 年の工事完成後に、関連工事として盛土の工事が予定されているとの説明があった。工事期間、予算はどのようなものか。
- (8) 盛土の量、搬入車両数は、どのようなものか。

1. 市内事業者を守り共に発展していく街へ

- (1) 市内事業者への支援策について
 - ① これまでセミナーや研修会等が開催され、受講者が補助金や支援制度を活用し、経営の改善や安定化を目指した取組みを進めるなど、セミナーの効果は表れているようだが、市主催のセミナーや研修会等に参加していない事業者に対してのアプローチはどのように行っているのか。
 - ② 市内にはさまざまな業種の事業者があるが、業種や業態のニーズに合ったきめ細かな支援制度をどのように行っているのか。
- (2) 工事・物品購入等、契約事務について
 - ① 10 年前・5 年前・現在と、指名競争入札参加登録している市内事業者数は、業種ごとどのように推移しているか。
 - ② 年間の市発注の工事・物品購入金額は市内・市外事業者での内訳はどうなっているか。
 - ③ まちの魅力創出には事業者の活力が必要だと

9 月 7 日

10 人目

11 番

山 崎 陽 一
(60 分)

- 考える。市内事業者の受注機会の拡大を図ることも大切だと思うが、市の考えを伺う。
- (3) 大規模商業施設イオンタウンの出店準備状況について
- ① 6月定例会において「出店準備がどこまで進んでいると聞いているか」の質問に「今後のスケジュールについては、改めて精査すると聞いている」との事だったが、その後の状況を伺う。
 - ② 仮に出店が中止になり、他の企業へ売却されマンション等が建設された場合、周辺の事業者にどのような影響が出ると想定しているか。
 - ③ 6月定例会以後、出店計画に対し、市として、どのような対応をとってきたか。

1. 区画整理撤回要求 第42弾

- (1) 区画整理見直しは市長の責務である。
- ① 第五次長期総合計画に掲げた平成28年度の進捗率目標は10%でほぼ予定通りだ。残り5年でどのような工事計画を立てたか。工程の計画書面を示してほしい。
 - ② 事業計画書の立案・作製者、責任者はだれか。計画倒れの責任はどうとるのか。
 - ③ 事業計画決定に際し地権者、市民、議会にはどんな資料でどのように説明したか。
 - ④ 区画整理部では事業を大幅見直した飯能市を視察したという。何を得たか。
 - ⑤ 事業凍結の東松山市和泉町など、区画整理担当者が視察した見直し地区の計画を聞く。
 - ⑥ 自治体施行区画整理、50ha以下の見直しの手順はどのようなものか。
 - ⑦ 「国は柔軟な区画整理として先進事例を紹介している」との答弁だ。具体的事例を聞く。
 - ⑧ 「自治体が状況に合わせて見直していることも事実」との答弁だ。具体的地域を聞く。
 - ⑨ 国、都は推進の前提として社会経済情勢の変化に対応できるよう10年を期間として設定することを勧めている。羽村市の今後のタイムスケジュールを聞く。
 - ⑩ 仮に事業計画を延長するなら事業費の増加はどれほどか。地権者、市民、議会にいつどのように説明するのか。

9月7日

11 人目

10 番

橋 本 弘 山
(60 分)

(2) 地域住民を脅かす危険な擁壁工事の問題を聞く。

先日、羽村東小学校の南側で大規模工事の説明会があった。長さ17m、90cm角のコンクリート柱128本を地中に打ち込むという。巨大運搬車が通学路を走り、大型重機が騒音・振動を響かせながらの危険工事だ。事業費は6億6千万円。都市計画道路3・4・12号線の用地確保が目的というが、道路建設予定は不明である。地域住民の生活を脅かす事業だ。市民に伝えているか。

- ①都市計画道路3・4・12号線の擁壁工事というが、都道開通はいつになるのか。
- ②この工事は線形内の地権者の移転先確保というが盛り土、移転はいつ頃の予定か。
- ③長さ20mのトレーラーが14mのコンクリート柱を運ぶという。どこから何回か。
- ④工事車両の全車種。運行回数。運行コース、CO2排出量はどれほどか。
- ⑤騒音、振動、砂塵対策はどのようなものか。
- ⑥騒音・振動規制法などの条例遵守は誰がどのようにチェックするか。
- ⑦羽村東小学校脇道路設置工事では休日工事、騒音違反などが見られた。誰が管理するのか。
- ⑧施行者である区画整理部職員が現場に不在だ。立ち会うのが義務ではないか。
- ⑨説明会で「桜並木を切らないで」という要望に対し「意見として聞いておく」という発言の真意は何か。

1. 監査制度の充実について

(1) 監査委員制度について

- ①権限強化、制度の見直しが提案されているが、市の考えは。
- ②独立性、専門性を高めることについて市はどう考えるか。
- ③議員のうちから監査委員を選任しないことが可能となったが、市はどう考えるか。
- ④外部監査制度について市はどう考えるか。

(2) 監査委員事務局の充実について

- ①現在、監査委員事務局職員と選挙管理委員会事務局職員が兼務となっているが、本市のように監査委員事務局職員が他の事務を兼務し

9月8日

ている自治体はいくつあるか。

②兼務していることについて市はどう考えるか。

③独立性、専門性を高めるためにも兼務は避けるべきと考えるがいかがか。

④この10年間で住民監査請求は何件あり、それはどのような内容であったか。

(3)福祉健康部の中に社会福祉法人の指導検査部門が存在するが、組織改正を行い、監査委員事務局に統合し、さらにその専門性を高める事は可能であるか。

(4)厳しい財政状況の下、監査制度の役割は益々重要になると思われるが、羽村市はどう考えるか。

2. 北朝鮮による弾道ミサイルへの危機対策について

(1)日本にとって戦後最大の危機と重く受け止めているが、市長の考えは。

(2)啓発のために政府がインターネットで配信した「国民保護ポータルサイト」は市民に周知されたか。

(3)弾道ミサイルが発射された場合、Jアラートを通じてどのように市民に知らされるのか。万が一羽村市周辺に着弾したときに、市はどのような対応をし、市民はどのような対応をすべきなのか。

(4)ミサイル発射から極めて短時間で日本国内に着弾すると言われている。着弾までに警報が間に合わないことも想定され、Jアラートだけに頼らない特別な訓練も必要と考えるがいかがか。

(5)避難施設として「災害」を念頭に置くのではなく、通常弾頭の場合にはミサイルの爆風から防護可能な堅固な建造物などを「一時的避難施設」として指定すべきと考えるがいかがか。

(6)核弾頭が搭載された弾道ミサイルが首都圏に着弾した場合や化学兵器や生物兵器などが用いられた場合の羽村市の対策と市民への対応は。

(7)ミサイル着弾などの有事の際の情報収集、避難誘導、避難施設指定等取り組むべき課題は多い。今後、羽村市としてどのように市民の生命、身体、財産を守っていくのか。

3. 介護予防事業に健康麻雀の導入を

全国健康福祉祭(愛称ねんりんピック)は、スポーツや文化種目の交流大会をはじめ、健康や福祉に関する多彩なイベントを通じ、高齢者を

12 人目

17 番

水 野 義 裕
(60 分)

中心とする国民の健康保持、増進、社会参加、生きがいの高揚を図り、ふれあいと活力ある長寿社会の形成に寄与するため、厚生省創立 50 周年にあたる昭和 63 年から毎年開催されている。本年 9 月には秋田県の各都市で「秋田ねんりんピック」が開催される。その 26 種目の 1 つとして、健康麻雀が正式種目に登録されている。

(1) 羽村市の状況について

- ① 公共施設で、囲碁、将棋を楽しんでいる高齢者の数を把握しているか。
- ② 麻雀が行われている公共施設はあるのか。
- ③ 麻雀の要望は届いているか。

(2) 健康麻雀について市の考えと今後の取組みについて伺う。

1. 羽村駅西口土地区画整理事業について

(1) 市がこれまでに実施してきた区画整理事業について

- ① 工期が延びたり、事業費が予定より膨らんだりしたのは何故か分析しているか。
- ② その分析の中で今回の事業に活かすべき点はあるか。
- ③ その分析は、市や公社の職員に共有されているか。
- ④ 清算金を算出するための点数 1 個当たりの単価は。

(2) 情報の蓄積と継承について

- ① これまで「まちなみ」に掲載した情報（例：17 号の Q&A）で、現状にそぐわなくなってきたものはあるか。あればそれはどんなものか。
- ② 地権者の協力を得るためにも、これまでに情報紙「まちなみ」に掲載された情報で、質問への回答や、換地などについての具体的な最新情報をまとめているか。
- ③ 市や公社の職員は何年かで交代しているが、地権者との折衝の経緯などについて、情報は引き継がれているか。

(3) 今後の事業について

- ① 10 年を区切りに、3 年ごとの計画で進めるとのことだが、少なくとも最初の 10 年についての計画は作成・公表すべきではないか。

9 月 8 日

- ②コスト圧縮のためにも、公社への委託割合を減らすべきではないか。
- ③電線地中化や1時間50ミリを超える豪雨への対策は計画に組み込むべきではないか。
- ④曳家対象の家屋は、すべて同じ工法で移転できるか。
- ⑤擁壁工事の説明には何人が参加されたか。地域には今後どのように周知していくか。

2. 都市基盤の維持は十分か

(1) 道路側溝・雨水柵の維持について

- ①側溝・雨水柵全体の現状を把握しているか。
- ②市内全域は、1時間50ミリの雨に対応できているか。
- ③豪雨時に溢水の危険のある場所はどれくらいあるか。
- ④クリーニングはどのように実施しているか。
- ⑤豪雨時にはどのような対応をしているか。危険個所の見回りが必要ではないか。

(2) 土砂災害への対応はどうしているか。

(3) 水道ビジョンについて

- ①石綿セメント管の敷設区域は、羽村駅西口土地区画整理地区に重なるとのことだが、事業の完成までの使用に耐えるか。
- ②管路の耐震化率は、近隣の福生市、瑞穂町、昭島市と比較してどうなっているか。
- ③委託業務の拡充を検討するとあるが、拡充に伴い業務を監督できる人材の育成が必須と考える。人材育成と技術力の強化を図るとあるが、具体的に必要な技術の要件と、専門家の確保についてどう考えているか。
- ④各家庭等の給水管の現状（管種・延長など）はどうなっているか。

1. 羽村駅に待合室やブックポストの設置を

- (1) 羽村駅のホーム待合室の設置について、具体化は進んでいるか。状況はどうか。
- (2) 羽村駅自由通路の拡幅に伴って
 - ①図書館の本を返却できるブックポストを設置してはどうか。
 - ②選挙の際には、期日前投票所の設置をしてはどうか。

- ③市民活動団体などが、催事告知や会員募集ができる掲示板を設置してはどうか。
- ④市民活動団体などが、作品などを展示できるショーウィンドウを設置してはどうか。
- ⑤コインロッカーを設置してはどうか。
- ⑥自由通路拡幅工事についての市民へのアナウンス・周知はなされたか。

2. 中学校の3学期制への移行準備はどう進んでいるか

- (1) 中学校の3学期制への移行準備状況はどうか。
- (2) 年間スケジュールについて
 - ①長期休業期間はどのように設定される予定か。
 - ②小中一貫教育に伴う連携事業はどのように設定される予定か。
 - ③職場体験はどのように設定される予定か。
 - ④その他、学年行事や学校行事はどのように変化する予定か。
- (3) 保護者への説明会、周知はどのように行うのか。
- (4) 2学期制から3学期制に変わることにより「中1ギャップ」が新たに生じる。どのような対応をとるのか。

3. 相次ぐオスプレイ事故はどう市に説明されたか

- (1) 昨年12月13日沖縄でのオスプレイ事故について、羽村市への説明はどのようになされたか。納得できる説明だったか。
- (2) 8月5日オーストラリア沖でのオスプレイ事故について、羽村市への説明はどのようになされたか。納得できる説明だったか。
- (3) 相次ぐ事故で、オスプレイの安全性に対する疑問はふくらむばかりである。横田基地への飛来・配備がなされないよう、今まで以上に市は力を尽くすべきではないか。

14 人目

2 番

浜 中 順
(60 分)

1. 必要な介護などが保障されるために

介護保険制度については、サービス低下・利用者負担の増加や介護士の待遇や確保の困難さ、介護の認定の引き下げなど、課題が大きくなっている。

- (1) 今年4月から「介護予防・日常生活支援総合事業」が開始されたが、利用者のサービス低下はないのか。
 - ①今年度の新たなサービスとして緩和型サービ

9月8日

スが行われていると聞いているが、利用者は何人か。また、利用者が受けるサービスに低下はないのか。

②上記①以外の新たなサービスの計画はどうなっているのか。

(2)基本チェックリストの導入など、制度的にも要介護認定率を引き下げる圧力が強まっていることが関係者から伝えられている。今年の通常国会では、介護給付を抑える実績によって国の介護の補助金額を決めていくインセンティブの制度が決められた。その中で、要支援・要介護の認定率を下げると補助金を多くもらえる仕組みも作られると聞いている。高齢者の健康施策の推進によって認定率を下げることは、一層進められなければならない。しかし、近隣の市では、介護認定の更新時に要支援から要介護にならず、再度介護申請をしてやっと要介護1に認定されたケースもある現状のなかで、このような仕組みを導入することは、今後、補助金目当てに認定率を下げる力が働く要因にならないか危惧される。その心配はないのか。

(3)介護を受けている方が認知症になった時、精神障害者保健福祉手帳を受けることで、税金の軽減など負担を減らせる場合がある。精神障害者手帳の取得について関係担当者に周知するとともに、多くの市民に伝えるために、高齢者担当窓口にわかりやすいリーフレット置いたり、広報や「ふれあい福祉のしおり」などにわかりやすく掲載すべきと考えるがどうか。また、関係の課が連携して、対象になりそうな方に申請を勧める必要があるのではないか。

2. 市道の安全対策について

一旦停止をしないなどの自転車の無謀な運転、スマートフォンを見ながらの歩行・自転車、また、高齢者による急な飛び出しや、ふらふらした運転など、道路を利用するうえでの危険について多くの市民から心配の声が寄せられている。早急に交通安全対策をすべきである。

(1)安全施設などの点検改善を

①交差点中央で安全のため光っている自発光式交差点紙が点灯していなかったり、壊れて放置されている。点検・補修を早急にすべきと

15 人目

3 番

印 南 修 太
(60 分)

- 考えるがいかがか。
- ②自転車の安全対策を
駅前中央通りと産業道路との交差点は自転車ナビが表示されているが、自転車と大型車が入ることになり極めて危険である。安全対策をすべきと考えるがいかがか。
- ③緑ヶ丘と五ノ神の境の四面道交差点に続く水道道路（市道 103 号線）では、自転車を避けるために、一部曲がったセンターラインの道路鉤を踏みがちになり、騒音も発生する。撤去すべきと考えるがいかがか。
- ④公園の樹木が伸び、信号が見えにくくなっている。早急な対策を（やまぶき児童公園など）。
- (2)交通安全マナーの一層の啓発活動を
- ①スマートフォンを見ながらの歩行・自転車、また、夜間・早朝の黒い服での散歩などの危険について、もっと効果的な PR をすべきではないか。
- ②市民が交通安全マナーを身につけられるよう、市主催で地域ごとに「交通安全教室」を開く必要があるのではないか。その際に、①の散歩の安全対策のために、反射テープやたすきの無料配布をしてはいかがか。

1. 羽村市の無電柱化に対する取組みについて

(1)小作駅東口の無電柱化について

- ①東京都が施工した、羽村市の延長は何メートルで、事業期間及び事業費はどのくらいだったのか把握しているか。
- ②この無電柱化による効果をどのように捉えているか。

(2) J R 青梅線の東側について

- ①羽村駅東口周辺の無電柱化の計画はどのようになっているか。
- ②消防署通りを無電柱化できないか。

(3) J R 青梅線の西側について

- ①羽村駅西口周辺の無電柱化の計画はどのようになっているか。
- ②土地区画整理事業と同時進行で、事業区域外の無電柱化に取り組む考えはあるか。

9 月 8 日

|

|

|

|